

奇遇・出会い

理念哲学研究部会 佐藤陽一

部会長福留民夫氏のもとで一冊の本を寄稿・編集することとなった。焦点を「経営の心」に学ぶ…「義と利のジレンマをいかに解くか」で第1部を総論とし福留部会長が執筆し、第2部を「心の経営」を實踐した16人の先達を選び、会員で分担・執筆した。当時の部会(月1回)は会場場所を求めて港区の公民館(JR新橋駅寄り近所)で研鑽を続けていた。幸運にも、英治出版が企画・編集に参画することになり、約1年の後に新刊書として世の中に出た…【新世紀「経営の心」16人の先達】英治出版(株) 2001.2.28 p.262 目次…別紙添付

小生は、武藤信夫氏と組み「角倉了以と角倉素庵…世界に先駆け、経済倫理を實踐」に取組、近世初頭に活躍した朱印船貿易での角倉舟への乗船規約【舟中規約】成立の前後に光を当ててみた。その乗船規約5ヶ条は素庵の師・碩学藤原惺窩により作成されたという。角倉了以・素庵親子は河川開削・通運を自己資本で行ったわが国最初の企業家でもある。

◆たまたま、現代の日本を代表する芸術3兄弟は千住 博・明・真理子である。博はNYを拠点に広く画家(日本画)として、明は作曲家として、真理子はバイオリストとして共に世界的に著名であるが、実は母親千住文子は角倉家の末裔であり、その優れた育児・教育論者としても著名である(2013. 6.27 多臓器不全で死去。87 歳)。奇遇…今から約 10 年前、現在住んでいるJR飯田橋駅隣のマンションのガス器具点検・保守で東京ガスの子会社の社員が来宅、名刺を拝見すると「角倉 00」とある。突差に「京都の角倉家のご関係の方ですか」と問うたところ、本家とは少し疎遠になっていますがとの返事である。角倉とは世にも珍しい名前なので、この出会い、奇遇に驚いた。上記本の出版より 10 年余を経た今日でも、あの頃を鮮明に思い出す。その後、英治出版は気鋭の中堅出版社へと発展、時にヒット作品を出しているようである。あの16人の先達は時に歴史の時代の検証を受け、厳しい立場に直面しておられる方もいるが、その心根には「義と利」との峻別、言動・行動への分別、格たる心根があり、何れも我々に教示・指針となるものを示している。

理念哲学研究部会はその後メンバーも大きく変わり時代の激しい流れの中で経営倫理のあるべき姿、心根を求め研鑽を続けている。例えば「先義後利」に対し富山の「先用後利」とはどのように違うのか?…普遍的なものなのか、地理的な限定的なものなのか等々我々が峻別して取り組まなければならないのか?

利己を脱して公益を優先するとは……我々の取り組むべき課題は多い。

近時、学者の世界でも研究不正(論文盗用:改ざん・捏造、研究資金の流用等)が発覚し、研究者に倫理研修義務化が提起される状況である。今朝の朝日新聞朝刊第1ページには「研究者に倫理研修義務化」と明示し国の研究資金約4千億円の配分を監視する。7項目を必修、利益相反など3項目を任意とする。受講、テスト等を受けない場合は「研究費の執行を停止することがある」としている。(別紙記事添付)

世の指導者たるべき階層でも、思考の脱落、退化が問われる現状に対して、当学会に求められている課題も多い。(2013.7.28 記)